

平成28年度 全国視聴覚教育連盟 研究プロジェクト

『ICT社会に対応したメディアセンター機能及び環境構成に関する研究』 ◇研究プロジェクトⅡ 「地域メディアセンター構想研究」報告書 ～地域視聴覚ライブラリーの機能改善を目指して～

地域メディアセンター研究部

1. 研究の背景とねらい

地域社会におけるICT（情報通信技術）環境の整備が進み、インターネットをはじめ地上デジタル放送、モバイルメディア等の普及によるメディア利用の多様化が定着し始めている。また、教育におけるメディア利用の視点から見ると、学校教育及び社会教育等においても、インターネット等を通じての映像コンテンツの利用が日常化し、積極的な活用が始まっている。

全視連は、「ICT時代に対応したメディア利用」をキーワードに、従来の視聴覚メディアを大切にしつつ、ICTを活用した映像コンテンツ提供や学習機会の提供、教育メディア研修等を推進し、時代に対応した視聴覚センター・ライブラリーの活性化支援を行う必要性を痛感している。

そこで、地域視聴覚ライブラリーの廃止・組織統合等が進む現実を直視し、地域視聴覚ライブラリーの機能改善を図り、ICT環境の整備や活用を視野に入れ、他の教育メディア関係組織や団体との連携を含めた地域のメディアを活用したコミュニケーションづくり等、新たな改善策や方向性の検討に取り組み、視聴覚ライブラリーの存在価値を高める活動を推進してきた。

2. 研究の内容

「ICT社会に対応したメディアセンター機能及び環境構成」に関する研究プロジェクトで、「地域メディアセンター構想研究～地域視聴覚ライブラリーの機能改善を目指して～」を進めてきた。

昨年度は、アンケート調査結果の中間報告を受けて、現実的視点から地域の学びに役立つメディアサービスを行う地域視聴覚ライブラリーとはどのような機能をもったらよいか、検討し、試案をまとめた。

今年度は、地域における学びに役立つメディアサービスを行うために、視聴覚ライブラリーの機能をどうリフレッシュさせる等の促進策を検討した。

具体的には、地域自作教材の保存、学びへとつながるHP等での情報提供、県域での研修や情報交流、被災地へのサポート活動、インターネットTVと映像コンテンツのネット配信、人材発掘等、地域メディアコミュニケーションづくりなどの具体的な活動と相互連携及び協力体制づくりについて検討した。

各地域視聴覚ライブラリーが単なる“映画や録画教材の貸出機関”から、「ICTを駆使し、メディアを学び・創り・送り・使うための学習機会の共有、技術支援、機器及び環境提供をサポートする地域メディアセンターとしての在り方」を検討し、成果を公表する。

(1) 研究項目

- ① 研究の背景とねらい
- ② 機能事例1：「仙台市における地域メディアセンターの機能強化について」
- ③ 機能事例2：「岩手県における地域視聴覚ライブラリーの研修や連携、被災地支援について」
- ④ 機能事例3：「篠山市におけるインターネット動画配信の実際」
- ⑤ 機能事例4：「地域に開かれたセンターをめざして～情報発信と機能改善～」
- ⑥ まとめ

(2) 研究項目分担

主査	原田 成夫（山形県北村山視聴覚教育センター）	分担項目⑤
委員	山村 淳（岩手県盛岡市教育事務所教務課）	分担項目③
同	相澤 文典（仙台市教育局生涯学習課）	分担項目②
同	高見 晴彦（兵庫県篠山市視聴覚ライブラリー）	分担項目④
総括	照井 始（全視連副専門委員長・東京情報大学非常勤講師）	分担項目①⑥

(参考資料)

平成27年度 地域視聴覚ライブラリーの機能改善に関する研究部会報告書
平成28年度 全国視聴覚教育連盟事業計画書

機能事例 1：仙台市における地域メディアセンターの機能強化について

仙台市教育委員会生涯学習課
主幹兼社会教育主事 相澤 文典

1. はじめに

コンピュータが一般に普及し始めてから約 30 年、コンピュータは我々一人ひとりの生活に欠かせないものになってきている。現在では、企業はもちろん学校や行政機関、その他多くの団体・個人がコンピュータにより情報を発信しているという状況になっている。

めまぐるしい進歩の中で、企業、団体等におけるホームページの役割は大きくなってきているが、全国視聴覚ライブラリーにおいては、平成 27 年度で開設している割合が 42.7%と半数にも満たない状況である。(表 1) より多くの人に有意義な情報を提供すること、さらに各メディア機関をつなぐ役割を担うホームページの充実を図ることは、まさに喫緊の課題ともいえるのではないだろうか。

本研究では、利用者にとって魅力あるホームページとはどのようなものなのか、さらに地域の中心となり情報を発信するメディアセンターのあり方について、仙台市の事例を紹介しながら考察していきたいと思う。

(表 1) 全国視聴覚ライブラリーにおけるホームページ開設ライブラリー数

	全国視聴覚ライブラリー数	ホームページ開設ライブラリー数	全体に占める割合
平成 25 年度	610	215	35.2%
平成 26 年度	594	247	41.6%
平成 27 年度	581	248	42.7%

平成 27 年度版「視聴覚センター・ライブラリー一覧」より

2. 仙台市における情報提供施設

昨年度の調査から、全国の視聴覚ライブラリーにおいて単独でホームページを開設しているセンターは数少なくなってきており、市町村や他の施設と共同で開設している実態がわかった。

施設の利用者にとっては、ホームページを閲覧する上で、

- ・情報が新しいこと
- ・複雑でなく理解しやすいこと
- ・興味が広がること

が、要求として大きなポイントになっている。仙台市の社会教育施設は、ほぼ単独でホームページを作成しているが、各施設の内容については、この 3 つの視点を十分に意識したものになっていると考えている。そして、その先進的な情報発信を行っているのが、「せんだいメディアテーク」

である。

「せんだいメディアテーク」は市民ギャラリー、図書館、映像メディアセンター、視聴覚障害者のための情報提供施設の機能を併せ持つ芸術文化施設として、平成13年に開館した。現在は公益財団法人仙台市市民文化事業団が指定管理者として運営している。（図書館は仙台市直営）本施設の情報提供事業のひとつとして、地域のさまざまな文化活動のアーカイブ化があげられ、東日本大震災以降は「3がつ11にちをわすれないためにセンター」事業を立ち上げ、学校の防災教育と連携して資料の活用を図ったり被災地を定点観測した写真の展示や上映会を開催したり、震災の記憶を風化させない取り組みを行っている。

「せんだいメディアテーク」のホームページは、市民のニーズを的確にとらえた内容になっており、特に生涯学習を意識した市民にとって、興味関心を高める事業やイベントの情報を提供している。是非一度閲覧していただければと思う。

<http://www.smt.jp/>

「せんだいメディアテーク」

3. 自作視聴覚教材審査会の実施

仙台市教育委員会では、仙台市における地域映像ソフトの充実を図り、学校教育・社会教育において広く利用することを目的に、毎年、地域の身近な素材をもとにした映像ソフトを制作するグループを募集している。募集した作品については、毎年2月に審査会を行い、優秀な作品は全国自作視聴覚教材コンクールへ推薦している。参考として、平成28年度の作品を紹介する。

部 門	題 名	種 別	内 容
社会教育	リサイクル可能な資源物 ごみが生まれ変わる	映像教材D VD	家庭ごみにおいてリサイクルできる資源物が48%混入されています。プラスチック製容器包装選別施設と松森資源化センターを訪ね、でごみが生まれ変わる流れを見てみました。
社会教育	ああ・・・満州仙台村 ～仙台村開拓団員物語～	紙しばい	太平洋戦争中、満州国で食糧増産に励む仙台村開拓団員。敗戦後、現地人やソ連軍に襲撃され、苦難の逃避行、命からがら帰国した。
社会教育	「2万年前の世界へようこそ～地底 の森ミュージアムを知る旅～」	映像教材D VD	創立20周年を迎える地底の森ミュージアムの成り立ちと展示物や各種イベントの紹介、野外展示の四季を追った作品。
学校教育 小学校	水の旅	デジタルコ ンテンツ	配水所、水管橋などを巡ることによって各施設の働きとその関連を水の流れを通して全体的に捉えさせる。
学校教育 小学校	郷土を開く ～福岡大堰くぐり穴用水路～	映像教材ブ ルーレイ	小学校第4学年の社会科、「郷土を開いた人」という小単元での授業で活用できる教材。福岡大堰くぐり穴用水路は、泉区の農業用水として長い歴史がある。先人の苦労と努力を学び、地域を見つめ直す教材。
学校教育 小学校	仙台・作並こけし ～伝統を守る思い～	映像教材ブ ルーレイ	小学校4年生社会科の単元「わたしたちの県」の授業で活用できる教材。仙台的作並こけしの伝統技術を守って作り続けている職人を紹介する。

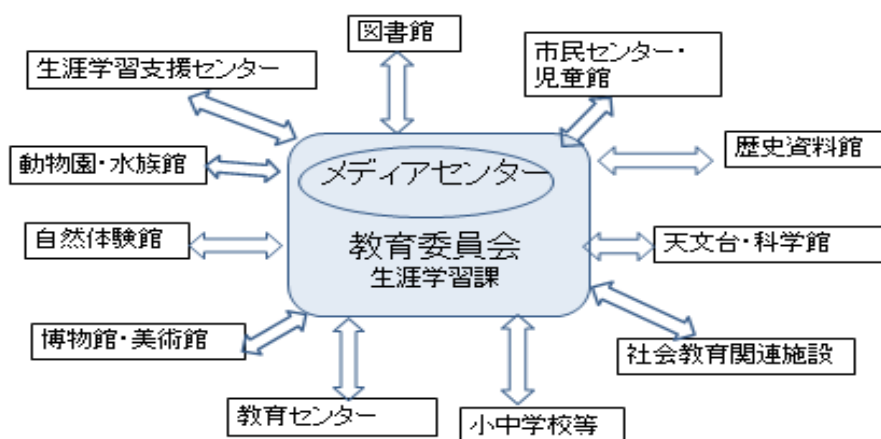
作品については、審査会終了後「せんだいメディアテーク」ホームページ上の、教材アーカイブに掲載し、広く学校教育関係者や社会教育関係者での活用を図っている。利用者は、直接教材アーカイブより視聴可能になっている。さらに、学校関係者の資料等利用にあたっては、電話で予

約し各学校を巡回する郵便システムにより、わざわざ来館して資料を借用、返却する必要なく活用することができるようになっていくことが特徴である。

昭和 59 年より形は変わりながらも本審査会は続いており、蓄積した教材もかなり豊富になってきているが、多くの市民が貴重な映像を自由に視聴できるのも、このメディアテークの存在が大きいといえる。

4. 地域のメディアセンターとしての役割

仙台市では、地域のメディアセンターとしての機能をメディアテークが有しているが、まだ全市民的なつながりにはいたっていない。現代社会においては、ホームページを単なる情報発信としてではなく、生涯学習の観点から学びへつなげる情報を提供していくことが求められている。特に増え続ける高齢者にとっても、各施設の WEB ページを見ることから、活用し、創造する時代になってきている。こうした現状からも今後は、地域の実態、市民のニーズを常に把握しながら、図 1 のような、各施設の連携と中心となるメディアセンターの存在が大きくなっていくことは間違いない事実である。



【図 1】

5. おわりに

私的な考えを中心に述べてきたが、時代とともにメディアに対する市民のニーズは大きく変化している。これまで、単独で運営、一方的な発信をしてきた施設にとっては転換期を迎えたといっても過言ではない。社会教育行政に携わる人間として、あらためて生涯学習の観点からホームページの内容、情報発信のあり方を見直していきたいと考えている。

参考：せんだいメディアテーク年報（2015 年度）協力：ICT 教育アドバイザー菊地氏

機能事例２：岩手県における地域視聴覚ライブラリーの 研修や連携、被災地支援について

岩手県教育委員会事務局 盛岡教育事務所 教務課
主任社会教育主事 山村 淳

１．はじめに「岩手県内の視聴覚ライブラリーの現状」

平成２８年度の岩手県内には１５の視聴覚ライブラリーがあり、３協議会と１１市町、県立図書館で運営されている。その中で、専任職員等が配置されているのが５か所で、３協議会（盛岡教育事務所管内教育振興協議会、県南第一地域視聴覚教育協議会、沿岸第一地域視聴覚教育協議会）と２市（花巻市立図書館視聴覚教育ライブラリー、宮古市視聴覚ライブラリー）である。その他の視聴覚ライブラリーでは、市町等の職員（視聴覚担当等）が視聴覚ライブラリー業務を兼任している状況である。また、収入のない視聴覚ライブラリーは３市町、昨年度の利用人数が０人のライブラリーは２町という現状である。

【平成２７年度 岩手県内の主な視聴覚ライブラリー 運営状況】

視聴覚ライブラリーの名称	利用対象人数	専任／兼任職員数	収入（有無）	利用人数
◆中央地域 ※１	477,757	１／４	協議会費 有	19,174
花巻市立図書館 ※２	99,230	１／４	市町村費 有	5,421
北上市	93,676	０／３	市町村費 有	6,476
西和賀町	6,076	０／１０	無	０
◆県南第一地域	268,426	１／８	協議会費 有	27,750
◆沿岸第一地域	64,939	１／５	協議会費 有	3,651
釜石市	35,547	０／４	市町村費 有	665
遠野市	28,529	０／６	市町村費 有	641
大槌町	12,306	０／３	市町村費 有	０
久慈市	36,443	０／３	無	646
◇県北第二地域 ※３	83,634	１／４	協議会費 有	899
二戸市	28,174	０／６	無	2,298

◆：協議会 ◇：平成２７年度までの協議会

※１：盛岡教育事務所管内教育振興協議会の視聴覚ライブラリーの名称は、「中央地域視聴覚ライブラリー」である。

※２：花巻市の視聴覚ライブラリーの名称は、「花巻市立図書館視聴覚教育ライブラリー」である。

※３：「県北第二地域視聴覚ライブラリー」は平成２８年３月に解散し、現在は３市町（宮古市、山田町、岩泉町）それぞれで運営されている。

本事例では、岩手県における地域視聴覚ライブラリーの研修や連携、被災地支援について、主に盛岡教育事務所管内教育振興協議会「中央地域視聴覚ライブラリー」での取組を中心に紹介する。

（盛岡教育事務所管内教育振興協議会の視聴覚ライブラリーの名称は、「中央地域視聴覚ライブラリー」である。）

一」である。以下、「盛岡中央ライブラリー」と表記する。)

2. 事例Ⅰ「岩手県と盛岡中央ライブラリーによる研修」

(1) 岩手県による研修「岩手県地域視聴覚教育協議会 専任職員等研修会」

岩手県地域視聴覚教育協議会連絡協議会では、「岩手県地域視聴覚教育協議会 専任職員等研修会」を開催している。県内の各地域視聴覚教育協議会の連携・協調を図るとともに職務に関わる研修を深め、専任職員としての資質を高めることを目的としている。

2日間の研修で、今年度は1日目に「事例紹介・協議」と「情報交流会」を、2日目に「講話と交流」を行った。事例紹介では、「盛岡中央ライブラリーの活動」について、盛岡教育事務所管内教育振興協議会の専任職員が紹介をした。講話では、「被災地支援の現状とこれからの視聴覚活動 ～生涯学習としての映像教材を考える～」と題して、講師「東京情報大学非常勤講師 全視連副専門委員長 照井 始 氏」による講話を行った。

参加者は、県内の地域視聴覚協議会及び市町村ライブラリー専任職員や県立図書館視聴覚資料担当職員の総勢10名であった。感想には「各ライブラリーの活動が分かり、とても参考になった」や「年に一度の唯一の情報交換の場なので、今後ともぜひ続けてほしい」等の声があった。また、アンケートによる参加者の満足度は5（5段階評価）という高評価であった。



「被災地支援の現状とこれからの視聴覚活動 ～生涯学習としての映像教材を考える～」

(2) 盛岡中央ライブラリーによる研修「映画会担当者研修会」

盛岡教育事務所では、「映画会担当者研修会」を開催している。映画会を実施している各種施設の担当職員を対象に、多くの世代が集う映画会を実施するための実践的な研修を行い、担当者の資質向上と視聴覚教材の利用促進を図ることを目的としている。

半日の研修で、今年度は「演習」と「試写・説明」を行った。演習では、「映画会に取り入れたい簡単なレクリエーション」と題して、講師「岩手県立児童館いわて子どもの森 チーフプレーリーダー 長崎 由紀 氏」による講義と実技を行った。その後は、「人気のある教材」や「新規購入教材」の試写・解説、「盛岡中央ライブラリーの利用方法」について説明し、交流を図るようにした。

参加者は、管内公民館職員や図書館職員、映写ボランティア等17名で、アンケートによる参加者の満足度は4.9（5段階評価）という高評価であった。



「映画会担当者研修会」演習の様子

3. 事例Ⅱ「他機関との連携『映画の街盛岡 推進事業』」

盛岡中央ライブラリーは、『映画の街盛岡』推進事業実行委員会 ※4の構成団体の一員として、

「素敵なまちの映画会」に連携・協力している。

「映画の街盛岡」推進事業 ※5 は、盛岡市中心市街地活性化基本計画の1つであり、映画を活用することで、中心市街地の活性化を図るものである。事業計画期間は、平成19年度から29年度まで ※6 とし、「素敵なまちの映画会」など各種事業を展開している。

「素敵なまちの映画会」は、感動的な映画や思い出の映画等の上映を通して市民に映画の面白さを感じていただき、映画ファンの拡大と街に来る人の増加を目的としている。

盛岡中央ライブラリーの教材を活用し、無料の映画会を毎月1回開催している。平均来場者数は約68名（定員70名）、アンケートによる参加者の満足度4.4（5段階評価）と市民に大変好評であり、映画を通しての市街地活性化の一助となっている。



「素敵なまちの映画会」の様子

【平成27年度 「素敵なまちの映画会」 実施状況】

No	実施日 時間	参加 人数	上映作品	参加者満足度 (5段階評価)
4月会	4/25(土) 13:30~15:45	57	「県政映画(ニュース)『昭和47年』」 「裸の大將放浪記～山下清物語～」	4.8
5月会	5/23(土) 13:30~15:50	71	「県政映画(ニュース)『昭和48年』」 「ローマの休日」	4.4
6月会	6/27(土) 13:30~16:00	55	「県政映画(ニュース)『昭和49年』」 「おくりびと」	4.6
7月会	7/25(土) 13:30~15:25	56	「県政映画(ニュース)『昭和50年』」 「カッパの三平」	3.9
8月会	8/22(土) 13:30~16:05	65	「県政映画(ニュース)『昭和51年』」 「日本画家 平山郁夫～私の歩んだ道～」 「はだしのゲン」	4.3
9月会	9/26(土) 13:30~15:05	56	「県政映画(ニュース)『昭和52年』」 「宮沢賢治」「雪渡り」「どんぐりと山猫」	4.2
10月会	10/17(土) 13:30~15:20	102	「県政映画(ニュース)『昭和53年』」 「大いなる旅路」	4.8
11月会	11/28(土) 13:30~15:50	54	「県政映画(ニュース)『昭和54年』」 「Mayu—ココロの星—」	4.5
12月会	12/19(土) 13:30~15:30	77	「県政映画(ニュース)『昭和55年』」 「フランダースの犬」	4.5
1月会	1/23(土) 13:30~15:45	65	「県政映画(ニュース)『昭和35年』」 「おにぎり」	4.5
2月会	2/27(土) 13:30~15:50	70	「県政映画(ニュース)『昭和36年』」 「くちづけ」	4.3
3月会	3/26(土) 13:30~15:30	90	「県政映画(ニュース)『昭和37年』」 「加奈子(仮)マイホームタウン」*監督、ゲストによるトークショーも開催	4.2
合計 平均		818 約68		4.4

※4：『映画の街盛岡』推進事業実行委員会」の構成団体は、次の11団体である。盛岡大通商店街協同組合、映画館通り街づくり協議会、株式会社中央映画劇場、南部興業株式会社、フォーラム盛岡、NPO法人シニアパワーいわて、むかしこまちの会、中央地域視聴覚ライブラリー（盛岡中央ライブラリー）、盛岡商工会議所、盛岡まちづくり株式会社、盛岡市

※5：「映画の街盛岡」推進事業の目的：盛岡市は、市中心部に映画館が集積し、全国的にも珍しい「映画館通り」がある。また、映画祭が毎年開催されるなどの独特な映画文化が根付いた街である。

近年、全国的に市民の生活様式の変化や郊外の大店の出店などにより中心市街地の空洞化が顕著に見受けられ、盛岡市においても同様の状況である。このような状況の中、映画を活用し中心市街地の活性化を図るため、市民や商店街、映画館、商工団体、行政の連携を深めながら継続して映画を活用した事業を実施し、エリアの魅力向上や回遊性を高め、「映画の街盛岡」を市内外に情報発信することにより、中心市街地の活性化を図り、さらには北東北の交流拠点都市としての盛岡市の魅力の向上を目指すものである。

※6：事業計画期間は、平成19年度から第1期盛岡市中心市街地活性化基本計画の終了年度である24年度までとしていたが、盛岡市では第2期中心市街地活性化基本計画の国の認定を受けたことから、本事業についても第2期計画終了年度である29年度までとなった。

4. 事例Ⅲ「被災地への支援活動『沿岸地域出前映写会支援事業』

岩手県地域視聴覚教育協議会連絡協議会では、「沿岸地域出前映写会支援事業」を実施している。視聴覚機器を活用した被災地におけるレクリエーション活動の充実を図るとともに、住民の心のケアと地域のコミュニティ再生支援に資することを目的としている。

この事業は、沿岸地域の公民館等の社会教育施設、学校、仮設住宅集会所等における映写会（16ミリ映写等）に専任職員等を派遣するものである。派遣に係る経費（旅費）は、岩手県地域視聴覚教育協議会連絡協議会より支出される。

平成23年度からの支援実績 ※7 は、下のとおりである。

【平成23年度～平成27年度 沿岸地域出前映画会支援事業 実施状況】

年度	実施回数	参加者	実施市町村	依頼団体	対応ライブラリー
23	22	382	山田町 宮古市 久慈市 大槌町 岩泉町	放課後子ども教室 放課後児童クラブ 等	盛岡中央ライブラリー、 県南第一ライブラリー、 県北第二ライブラリー
24	13	256	陸前高田市 山田町 岩泉町	放課後子ども教室 放課後児童クラブ 等	盛岡教育事務所、盛岡中央ライブラリー、 県南第一ライブラリー、上映ボランティア集団フィルムズアトリエ、 沿岸第一ライブラリー、大船渡市教育委員会、 県北第二ライブラリー
25	2	43	山田町 岩泉町	放課後子ども教室 子ども会	県北第二ライブラリー
26	12	384	宮古市	学童	盛岡教育事務所、県北第二ライブラリー、 宮古教育事務所、宇都宮視聴覚ライブラリー ※8、 宮古市教育委員会
27	2	50	大船渡市	学童 地区公民館	沿岸第一ライブラリー

※7：本支援実績は、岩手県地域視聴覚教育協議会連絡協議会で把握している実績。

※8：うつのみや映写ボランティアの被災地支援の一環として、被災地の希望とマッチングさせた映画会を実施。

「沿岸地域出前映写会支援事業」は、視聴覚ライブラリーと市町教育委員会・福祉課、放課後子ども教室・学童、子ども会等との連携により、視聴覚機器を活用した被災地における社会教育事業支援の一つとして位置づけられている。

実際の映写会での児童は、楽しみながら鑑賞し、映写後の感想発表でも積極的に発言している。被災地の子供たちにとって、貴重な休養と娯楽の時間となっている。



「沿岸地域出前映写会支援事業」の様子

5. おわりに

岩手県内の視聴覚ライブラリーは現在も、人（専任職員）とお金（収入）が不足している状況にある。しかし、各々の視聴覚ライブラリーの工夫と連携により、研修会を開催したり、街の活性化事業に協力したり、被災地への支援活動を実施したりしている。

研修会を開催し学習機会を設定することにより、担当者の資質向上を図るとともに視聴覚教材の利用促進にもつながっている。また、街の活性化事業に教材・機器の貸し出し及び技術支援等の協力をするにより、様々な団体とのつながりもでき、視聴覚ライブラリーでの事業内容の広がりともなっている。そして、被災地への支援活動では、全県での連携協力により、被災住民の心のケアとコミュニティ再生支援の一助となっている。

今後も、視聴覚ライブラリーが、地域とのつながりを大切にし、情報交流を深め、地域メディアセンターとしての役割を担い、発展させていくことを願う。

機能事例3：篠山市におけるインターネット動画配信の実際

篠山市役所総務部総務課視聴覚ライブラリー係
係長 高見 晴彦

1. はじめに

ささやま
○篠山市視聴覚ライブラリーでの取り組み

篠山市は兵庫県の中東部に位置しており、緑の山々に囲まれた自然豊かな地域です。大阪から電車や車で約1時間の距離にありながら、日本の原風景といわれる景観が今も残っています。

当ライブラリーは、篠山市立中央図書館内にあり、2名の担当係長が常勤し事業の運営を行っています。（館長〔総務課長兼務〕及び、館長補佐〔総務課情報化グループ統括〕は市役所庁舎常勤）

当ライブラリーの平成28年度の主な業務は、下記のとおりです。

（1）視聴覚ライブラリー事業

①視聴覚ライブラリー運営委員会

運営委員会を年に2回開催

②編集室の無料開放と映像撮影・編集、音声の録音やメディア複製の支援

H28年度編集室利用件数：平均58件/月、昨年度：平均45件/月（10月末まで）

③視聴覚機器の貸し出しと活用支援

H28年度貸し出し件数：平均28件/月、昨年度：平均22件/月（10月末まで）

④ドキュメンタリー映像の制作

今年度は、丹波焼最古の登窯修復に係る記録映像

「丹波焼の里の新たな挑戦」の制作

（34分、平成26～27年度の2年間撮影し、

平成29年3月完成）



⑤視聴覚教材の制作

今年度は、「丹波焼ができるまで」の視聴覚教材の制作。DVDを市内の学校へ配布。

（12分、平成29年2月完成）

郷土料理レシピ本「ささやまごはん、ごちそうさま。『よろしゅう おあがり』」

副教材DVDの制作（38分、平成28年12月完成。平成29年4月上旬販売開始）

⑥ドローン（マルチコプター）の活用

操作訓練及び地域の祭・イベント・学校の空撮の実施（職員プロジェクトに参加）

⑦備品の更新

貸出用プロジェクター1台、貸出用スクリーン1台を更



新

⑧市民ビデオはじめて講座

受講者 6 名、全 6 回、11 月 19 日作品発表会講座の様子

（２）地域映像配信事業

①地域映像ニュースの制作・ネット配信及び、お便りビデオの配信

当ライブラリー職員が制作した地域の映像ニュースや、「ささやまビデオサークルレインボー」の会員が作った「お便りビデオ」を当ライブラリーの HP「丹波篠山インターネット TV」及び Youtube の篠山市視聴覚ライブラリーのチャンネルで配信

平成 28 年度は、地域映像ニュースを 13 本、お便りビデオを 8 本配信

②丹波篠山まるいの TV（まるてれ）番組制作及びネット配信

毎月最終金曜日に配信。その前週に、図書館内のホールを収録スタジオとして使用し、番組収録を行っている。ビデオサークルや市内の高校放送部の協力を得ながら、市広報紙と連携した内容の地域情報番組を制作し、Youtube の丹波篠山まるいの TV のチャンネルで配信

今年度から、まるいの TV の特集コーナーを四半期ごとに 1 つにまとめ、手話通訳者の映像を加えた動画も配信を開始

③「Web ラジオ」のインターネット配信

市内の朗読ボランティアが作成する市広報紙等の朗読音声データに、紙面の画像データを追加し、HP と Youtube で配信

（３）情報化推進事業

○情報通信に関する市民の相談窓口として「ICT ふれあいサロン」を運営

ICT サポートスタッフ（ボランティア）がパソコンの活用を支援

H28 年度利用人数：平均 128 人/月、昨年度：平均 153 人/月（10 月末まで）

（４）全国ビデオコンクール事業（丹波篠山ビデオ大賞）

「映像でこころ豊かに」を大会テーマとし、素晴らしい作品との出会いや、作品制作における発見、達成感、充実感など、映像を通じた豊かな暮らし、豊かな人づくりを目的に開催

２．「篠山市におけるインターネット動画配信の実際」

（１）丹波篠山インターネット TV の映像制作について

当ライブラリーの HP で配信している映像のビデオ撮影には、業務用ビデオカメラ (Sony HVR-S270J) と業務用三脚を使用しています。

地域映像ニュースの撮影では、撮影対象の規模にもよりますが、基本的に職員 1 人で行っています。イベントや、地域行事が大規模な場合は、2 人で撮影をしています。その場合、一人はカメラマン、もう一人はカメラアシスタントを担当し、約 6kg のカメラと約 6kg の三脚を手分けして持ち運び、負担を軽減しています。2 台以上のカメラで大掛かりな撮影をする場合は、ビデオサークルの会員に、ビデオ撮影や、カメラアシスタントを依頼する場合があります。

撮影内容は、イベント等の内容が分かるよう、様子やインタビューなど、ニュース映像の素材を撮影します。

次に編集ですが、基本的に一つの出来事について、撮影してきた職員が編集しニュース映像に仕上げ、配信まで行うこととしています。映像編集はPCで映像編集ソフト（当ライブラリーではグラスバレーのEDIUS Pro 7を使用）を使って行います。撮影してきた映像データ（コンパクトフラッシュに記録）をPCに取り込み、簡単なシナリオを作ってから、編集ソフトを使って5W1Hが説明できるようにニュース映像に編集していきます。映像が整うと、説明のテロップを挿入し、最後にBGMを付けて完成となります。出来上がった映像は、上司にチェックをしてもらい、問題なければ、丹波篠山インターネットTVとYoutubeの当ライブラリーのチャンネルにアップロードし、配信完了となります。

Youtubeについては、アカウントが停止されたり、サービスの終了などによって、動画がインターネット上から消えてしまう可能性もあります。そのため、丹波篠山インターネットTVのHPでは、手元に映像が残るように篠山市役所の独自サーバーから映像データを配信しています。ホームページ上でキーワードを入れ、目的の動画が検索できるようにデータベース化も行っています。また、ローカルのサーバーや外付けHDDにもデータを残し、映像データが消失しない様にバックアップしています。

Youtubeチャンネル（現在のチャンネル登録者は1256人）での視聴回数については、今年度配信した13本の映像の内、最も多かった映像（5月29日配信：運動遊びで親子のふれあい）の視聴回数は3,319回で、最も少なかった映像（10月3日配信：俳句と美術のコラボ展）の視聴回数は149回でした。



撮影と編集の様子

（２）丹波篠山まるいのTVの番組制作について

丹波篠山まるいのTVの撮影では、毎月の収録日には図書館内の視聴覚ホールに、ビデオカメラ3台、映像確認用モニター、カメラスイッチャー、音声ミキサー、映像送出用PC、映像収録機器、照明等を設置し、簡易収録スタジオとして使用しています。

司会者は、市内で司会業をされている方にメイン司会をお世話になり、アシスタントには、市内の高校放送部の部員に協力をしてもらっています。カメラ等の操作も、ビデオサークル、放送部員に協力をしてもらっています。

番組制作の毎月の流れとしては、月初めに、その月の特集コーナーの内容を決定し、シナリオの作成、ゲストの出演交渉、必要な映像を撮影して番組内で使用する映像の編集を行います。次に、シナリオと映像をもってゲストとの事前打ち合わせを行い、収録日の本番を迎えます。

本編とは別に、オープニングの映像も、市内の団体から出演希望者を募り、篠山市のマスコット

キャラの「まるいの」と一緒に、オープニングを飾っていただく映像の撮影を行います。

番組収録は配信する最終金曜日の前週に行います。出演者、スタッフが17時に集合するので、それまでにスタジオを設置し、機材のチェックを済ましておきます。17時から自己紹介、最終の打合せを行い、一通りリハーサルをして、本番の収録に入ります。生配信ではないので、言い間違いや失敗した時はやり直しができ、きっちりとした番組に仕上げるのが収録の利点です。

収録が終わると、配信日までにオープニング映像、特集、エンディングなどを編集し映像を仕上げます。内部のチェックを受け、問題なければ、配信日にYoutubeの丹波篠山まるいのTVチャンネルで配信します。

4月から2月の視聴回数は月平均546回でした。収録の様子



3. おわりに

人口約42,000人の篠山市でも、「視聴覚ライブラリー」は広く一般的に市民の方に知られている施設ではなく、まだまだその存在は知る人ぞ知る施設です。「丹波篠山インターネットTV」、「丹波篠山まるいのTV」の視聴回数についても、決して大勢の皆さんに視聴してもらっているとは言えません。出演していただいた方やその関係者に観てもらおうのが関の山です。一般のテレビ番組の視聴率も低くなっている時代ですので、いくらインターネットで配信しているとは言っても、一方的に情報を発信しているだけであるので、観てもらおうための手立ては必要だと思っています。地道ながらも、確実に広報活動を行い、視聴覚ライブラリーの存在を周知し市民の方に「篠山市には視聴覚ライブラリーがあって良かった」と思ってもらえるよう努めます。

映像制作についても、50年、100年後に「この映像が記録してあってよかった」と思ってもらえるよう、しっかりと「篠山の今」を記録し、後世に残したいです。



参考

①

②

③

①丹波篠山インターネットTV (<http://videotube.sasayama.jp/>)

②Youtube チャンネル sasayamaAVL (<https://www.youtube.com/user/sasayamaAVL>)

③Youtube まるいのTV チャンネル (<https://www.youtube.com/channel/UCfGT9L8L-vuxfBQ3FVRB4Uw>)

篠山市視聴覚ライブラリーFB (<https://www.facebook.com/sasayamaAVL/>)

篠山市視聴覚ライブラリーツイッター (<https://twitter.com/sasayamaAVL>)

機能事例4：地域に開かれたセンターをめざして～情報発信と機能改善～

北村山視聴覚教育センター 所長 原田 成夫

1. 取組のねらい

当センターは、山形県の中央部に位置しており、北村山（村山市、東根市、尾花沢市、大石田町）が一部事務組合を組織し、昭和49年に開所し視聴覚教育の研修や教材・機材の提供を柱に、北村山地域密着の事業を展開している。なかでも発足以来、地域素材を題材として、自作教材や伝統文化・芸能等の撮影、保存に力を入れている。また、映像のみならず地域の小中学校で発行されている学校文集や研究集録を収集し目録の作成など活動を行っている。現在はそれらのデジタル化とアーカイブ化を進めており、一部の作品についてはホームページ等で公開し、多くの方々が広く活用できるように取り組んでいる。前述したように、当センターの事業は地域密着型で行っており、教材制作事業・天文プラネタリウム事業・メディア教育研修事業などは、地域のボランティアサークルや学校教員の協力を得て行われている。

2. 取組の概要

（1）魅力的な情報発信の工夫

当センターの事業は、学校教育と社会教育関係の視聴覚教育を中心にして、幼児から高齢者までを対象にしたプラネタリウムの学習投影による天文学習や学習教材の上映など多岐にわたる。ICTの進歩により時代にあった情報発信も検討しなければならなくなった。そこで、当センターで取り組んでいる情報発信について紹介する。

① KAVEC教育情報CD-ROMの制作

この情報CD-ROMの制作は小中学校の先生や幼児施設の職員に当センターの機能を知ってもらい、学校教育、幼児教育をさらに充実したものにするために、当センターの利活用を促すことをねらいとしている。CD-ROMの中には、当センターの利用

の仕方や各種申請書、貸出用機材・教材の検索、視聴覚教育委嘱研究のまとめ、センター発行の通信、教育関係リンク先などを収めている。地域の小中学校の全教員の約650名、全幼児施設の37施設に配布している。このCD-ROMの制作は平成17年から取り組んでいる。はじめは授業で使える地域素材の静止画・動画を収録し学校に配布していたが、少しずつ集録内容を充実させるとともに、幼児施設・公民館にも配布するようにした。



② 公式 Facebook の運用

スマートフォンの普及により SNS の利用が当たり前の時代になったことで、新たな情報発信の1つとして公式 Facebook の運用を平成26年度から行っている。投稿内容は、センターのイベント情報や一般公開内容、天文情報を随時発信している。誰にでも簡単に写真付きの情報発信ができて、ホームページよりも手軽に更新できる。



(2) 自作地域教材の制作

教材の制作は、以下の3つの方法で取り組んでいる。

① 学校教材を中心とした当センター職員の制作

- ・小中学校の学習指導に沿った内容で地域素材を教材化
- ・教材化したい素材や内容などについて、地域の市町教育委員会から情報提供してもらい教材化を推進

【教育委員会事業と連携した制作教材】

部門	題名	区別	主催
学校教育	森は私たちの先生・村山市・ふるさと教育の森	DVD	村山市教育委員会他

② 伝承文化・伝統芸能などを中心としたボランティアサークルでの制作

- ・地域内で行われている行事や祭典などの年中行事について、主催団体等と連携を取り、主催者側の目的に沿った内容を撮影・編集して作品化・貸出教材化

【ボランティアサークルと共同制作教材例（抜粋）】

題名	制作年	主催・協力
北村山地区内のまつり（3市1町）	平成28年	各市町のまつり実行委員会・紅花ビデオクラブ
湯野沢熊野大祭～昔からつづく祭り～	平成25年	湯野沢熊野大祭実行委員会・紅花ビデオクラブ
次子年カブ	平成23年	紅花ビデオクラブ
北村山の伝統芸能	平成20年	社会教育専門部会

③ 自作視聴覚教材コンクールでの優秀作品の複製

- ・毎年実施している当センター主催の自作視聴覚教材コンクールの応募作品の中から優秀な作品を借り受け、複製し保管、貸出を行っている

【平成28年度の自作視聴覚教材コンクール出品作品】

部門	題名	区分	内容
児童生徒	楯中パワーアッププロジェクト	DVD	メディア利用で人に及ぼす影響について、脳と睡眠とメディアの関わりについて紹介する
児童生徒	ちゃちゃ子のお茶物語	DVD	茶道について「ちゃちゃ子」というナビゲーターが、歴史や道具、作法、現在の姿などを説明した
児童生徒	「大富地区」といもこ列車	DVD	大富地区と深い関わりがあり、通称いもこ列車と呼ばれた機関車に関する、経緯やルート、当時の状況、エピソード等についてまとめた
児童生徒	よりよい街にするためにわたしたちができること	DVD	ニコチン依存となったおじいちゃんを救うためにストレス解消の手伝いをして励みしながら、喫煙防止について説明する
児童生徒	太郎と二郎の大冒険	紙芝居	湖の中に消えた長瀬村を、2人の少年がもう一度人が住める村にしようと努力する物語
児童生徒	長瀬城戦国物語	紙芝居	戦国時代にタイムスリップした少年が、人々が死んでいくのを目の前で見て、平和の大切さを改めて感じる物語

児童生徒	はくぶつかんの大じけん	紙芝居	森の博物館に展示されていた「虹色の貝」が盗難にあい、知恵を出し合い犯人を捕まえる物語
児童生徒	パンダの大ぼうけん	紙芝居	動物園のパンダが森に遊びに行きトラブルにあったことをきっかけに動物園の良さを再確認する物語
社会教育	血染めの桜	紙芝居	山形城主の最上義光から撲殺された地元の戦国武将白鳥十郎長久の生涯を紹介した
社会教育	能登守物語 前編	OHP	心優しく武術に優れた延沢城2代目城主の能登守の活躍を紹介した物語
社会教育	名木沢一本杉伝説	紙芝居	皇位継承で命を落とした大山守命にまつわる名木のエピソードを伝える

【過去の全国自作視聴覚教材コンクール主な受賞歴】

制作年度	題名	区分	受賞内容
昭和57年	星空を写そう	スライド	文部大臣賞最優秀賞
昭和59年	りんごづくりのしごと	ビデオ	AVCC文部大臣賞
昭和61年	尾花沢市の克雪	ビデオ	日本放送協会会長賞
昭和62年	きのこ作りの仕事	ビデオ	文部大臣賞最優秀賞
平成17年	おいしい大豆のできるまで	ビデオ	文部大臣賞最優秀賞

団体として、昭和55年に視聴覚教育賞（文部科学大臣賞）、平成15年に全国視聴覚教育連盟特別功労賞を受賞した。

（３）AVL機能の活用

当センターでは、AVL機能を活かすために学校教育や生涯学習の関係機関と連携し、地域行事や特色ある事業等を撮影・記録してDVD等のメディアに教材化する「ふるさと映像情報制作事業」に取り組んでいる。連携機関は事業の企画運営を行い、当センターは撮影・記録を行い、それぞれの機能を分担して取り組んでいる。ここでは、他機関と連携して制作した自作教材をいくつか紹介する。

行事	連携機関等	活用場面
そば甲子園 	農林課 村山蕎麦の会	村山市のNPO法人村山蕎麦の会と農林課が主体となって開催しているそば甲子園は、全国の高校生によるそば打ちとそば粉を使った料理の腕を競う特色あるイベントである。イベントの様子を記録し関係者のみならず、視聴覚ライブラリーとして貸出教材にしており、地域住民の方も視聴できるようにしている。
つや姫ができるまで 	農林課 JAみちのく村山	つや姫は山形県のブランド米である。小学校5年社会科の学習に稲作に関する学習があり、教科書の中につや姫栽培の記事も掲載されている。他の米との栽培方法の違いなどに触れながら、つや姫栽培農家が200日をかけて作る栽培方法について学習する教材である。学校教育だけでなくJAみちのく村山で、訪問者につや姫を紹介する際にも活用されている。
尾花沢市小学校音楽発表会	尾花沢市小学校校長会	尾花沢市内の小学校児童が参加する音楽発表会の様子を撮影・記録し、企画運営の反省や次年度の参考資料として活用している。
東根市小学校合同音楽祭	東根市小学校校長会	東根市内の小学校児童が参加する音楽発表会の様子を撮影・記録し、企画運営の反省や次年度の参考資料として活用している。
第20回北村山中学校 総合文化祭	北村山中学校 文化連盟他	中学校生徒の入選した絵画・書道の展示や文化部で活動する生徒の制作作品展示や発表、吹奏楽部の演奏の様子を撮影・記録し、企画運営の反省や次年度開催の参考資料として活用している。

LOOK for エブリィ伝承祭	LOOK for 伝承文化 実行委員会	地域に根づく伝承文化活動を支援し、その発表と交流の場を創ることをねらいとしたイベントの様子を撮影・記録し、地域の方に貸出教材として活用している。
------------------	------------------------	--

(4) 魅力的なHPの作成と情報発信



当センターでは平成10年にホームページを開設し運用を行っている。ホームページの作成・管理はセンター職員が行っており、デザイン等は担当係で相談しながら工夫を凝らして取り組んでいる。情報発信は、一般公開のお知らせは毎月更新、イベントの情報は随時更新し、なるべく最新情報を発信できるように努力している。

現在、一部に不具合が発生し数項目しか閲覧できない状況である。誰にでも

わかりやすいデザイン、見たいものがちゃんと見られる、探したい教材がすぐ見つけれられるホームページにすべく機能の回復に努めている。

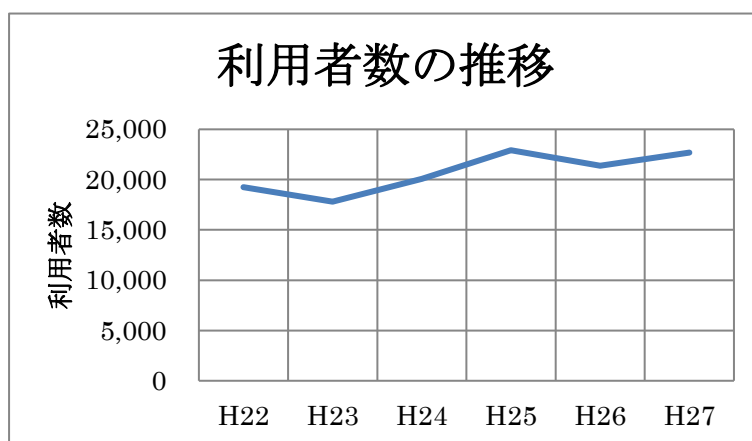
3. 取組の成果と今後に向けた展望

ICTの進歩により、情報発信の手段は多様化し、時代に合った情報発信が必要となっている。前記のような取り組みをすることで、当センターにFacebookやホームページを見て来館する方も少しずつ出てきていることは、成果として挙げられる。また、当センターの利用状況は、右に示すようになっている。平成22年は19,250人であった利用者が、平成27年は22,701人に増加していることは、適切な情報発信の工夫も増加の要因の一つとなっていると考察できる。

さて、今後に向けて展望として次の2点を挙げたいと思う。

1つ目は人とのネットワークの必要性である。当センターではボランティアサークルからの協力を得て自作教材の制作に取り組んでいる状況であるが、全国のセンターでも人材不足の悩みはあるのではないだろうか。一部のボランティアサークルでは、会員の固定化や高齢化が問題となっている点もあるが、新しい人材の募集や育成を行うことにより、地域人材を生かしより質の高い自作教材の制作に取り組めると考える。

2つ目は組織間ネットワークの充実である。地域のセンター単独での教材制作の情報収集や情報発信には限界があると考え。そこで、地域の図書館などの公的機関や学校などの教育機関、教育委



員会と連携を取り情報交換を行うことによって、互いのホームページをリンクさせるなど、情報発信を共有化できるようになる。そうすることで、地域への効果的な情報発信につながってくるのではないだろうか。

いずれにしても、地域視聴覚ライブラリーの機能は時代の流れで少しずつ変化してきているが、ICTやメディアを通して地域と共に学びながら、未来を創る架け橋となる存在に変わりはない。今後も機能改善を検討し、地域の方に「ありがたい！助かった！」と思われるライブラリーセンターであれるよう努力していきたい。

ま と め

全国視聴覚教育連盟 副専門委員長 照井始

1. 機能事例について

① 機能事例1では、仙台市のメディアセンター機能の強化について述べている。

全国の視聴覚センター・ライブラリー（581 か所）は年々減少傾向にあり、約 42.7%がホームページを開設している。地域視聴覚ライブラリーが持つ機能を有効に活用するには地域の映像情報を伝え、活用できる状況にすることも大切。

特に、地域の身近な素材を基にした映像ソフトを制作するグループの作品も紹介している。自作視聴覚教材審査会を通して、Web ページ上の教材アーカイブに掲載したり、全国視聴覚教材コンクールへの推薦なども継続的に展開されている。制作グループの育成と併せて作品審査と教育関係者等の活用促進へと導いている。

地域のメディアセンター機能を各機関や諸施設との連携により強化している様子は特筆したい。

② 機能事例2では、岩手県における地域視聴覚ライブラリー担当職員の研修や地域間の連携について述べている。

北海道に次ぐ広いエリアを持ち少ない専任担当者の地域視聴覚ライブラリーの状況にある岩手県の現状。しかも、2011.3.11 の大震災で沿岸部は壊滅的な被害を受けている。岩手県地域視聴覚教育協議会による専任職員等研修会を継続し、職務研修と情報交流を実施している姿は力強く感じる。

事例として取り上げている「映画の街」推進事業も地域的な状況を強く感じさせる。事業として、毎月実施されている映画会にも市民参加があり、継続的な活動として定着している姿が素晴らしい。

特筆すべきは、内陸部の視聴覚ライブラリー担当者が被災した沿岸部の子ども達や住民に提供

した移動映画会や読み聞かせ会などの活動が続けられたことである。被災し大変な思いをした子ども達や住民の心のよりどころとなる活動には頭が下がる。

③ 機能事例3では、篠山市のインターネット動画配信の実際が述べられている。

篠山市視聴覚ライブラリーは、ドキュメンタリー映像の作成の他に、市民ビデオはじめて講座の開催や視聴覚教材を制作し、市内諸学校へDVDを配布するなど積極的な活動をしている。

中でも特筆すべきは、インターネット配信のための地域映像ニュースの制作、番組制作、Webラジオの配信など多岐にわたっている。ぜひ、篠山市のHPから視聴覚ライブラリーが制作等にかかわった作品や映像情報を閲覧してほしいと願う。

また、「丹波篠山ビデオ大賞」は、市民の多くが関心を寄せ映像の素晴らしさを実感できる魅力あふれるイベントで、見事な実践力に感服している。

④ 機能事例4では、北村山地域の魅力的な情報発信の工夫が述べられている。

北村山視聴覚教育センターでは、情報CD-ROMの制作や公式Facebookの運用など積極的な活動を展開している。

地域の産業、伝統文化等を生かした映像の制作、コンクールの実施など児童生徒、住民などの他、地域校長会やJA、文化連盟などとも連携して教材化事業等にも積極的に取り組んでいる。このような実践活動をより魅力あるホームページで情報発信の工夫をしている。公的機関や学校などとホームページのリンクすることで情報共有できるなど、より機能的になっている。

地域視聴覚ライブラリーの存在感や地域の方々に役立つ視聴覚ライブラリーの在り方を示唆している。

2. 地域メディアセンター構想について

地域視聴覚センター・ライブラリーを取り巻く現状から、アンケート調査等で実態・課題を把握し、減少しつつある視聴覚ライブラリーの存在価値を高める地域メディアセンター構想を模索してきた。ICT教育利用の促進に触れ、学校教育及び社会教育等での情報通信技術の発展に対応した視聴覚ライブラリーの活性化を支援する必要性を痛感し、より具体的な実践事例をまとめた。ICT環境の整備を視野に入れ、各関連機関や地域の団体等との連携により、地域のメディアを活用したコミュニケーションづくり等、新たな方向性による地域視聴覚ライブラリーの存在価値を高める活動を推し進めていただきたい。

視聴覚ライブラリーのもつ機能を特化させ、総花的でない魅力あふれる映像メディアを活かせる専門機関として地域の情報拠点となることを期待してやみません。